

# 月刊ウィーン

## GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙  
創刊平成元年 創刊28年目  
創刊1989年 Nr.324

# 2016年6月号





# 杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 57



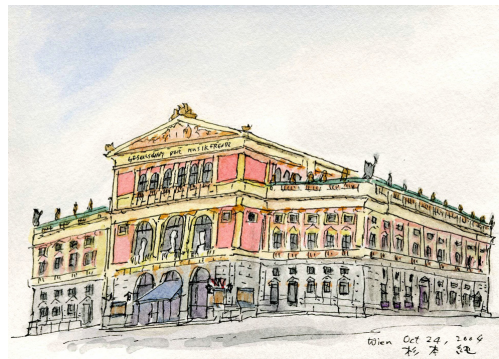
国際原子力機関 (IAEA) の技術協力諮問委員会が四月 三日〜五日にかけて、ウィーンの IAEA 本部において開催された。IAEA には技術関連部局として、原子力科学・応用局、原子力エネルギー局、原子力安全・セキュリティ局、保障措置局、及び技術協力局の五局があり、各局では外部委員より構成される諮問委員会を設け、各局の活動を検討し、その結果を事務局長へ報告している。その中で、技術協力局の役割は、加盟国の持続的な社会・経済的発展を支援するに当たり、原子力技術の平和かつ安全・セキュリティを確保した利用を維持・強化する技術サービスを提供することである。具体的には、教育・訓練等を通じた人材育成、研究開発支援関連資機材の提供、技術的助言、知識の共有、ネットワーク化などが主な活動内容であり、他の四局の活動と横断的に関連している。筆者は、二〇一二年から継続してこの委員会に出席している。今回の主な議題は、自立と持続可能性に向けた技術協力の貢献、及び持続可能な開発目標の達成を支援するための事務局



長の「平和と開発のための原子力」概念の具体的な行動への転換であった。会合はボリビアのトレス議長により進められ、提言がとりまとめられた。また、今回初めて原子力応用諮問委員会との合同会合が持たれた。我が国は米国に次ぐ多額の資金を IAEA に拠出しており、予算の効果的活用、説明責任の観点から国益を見据えた対応が重要と考え、自立と持続可能性を中心に積極的に発言し、提言にも取り入れられた。その中間には、地元の人や国際機関に務める日本人との会食や佐渡裕さんの講演会に出席の機会があるなど、会合以外でも収穫があった。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の代表的なコンサートホールについて述べてみたい。ウィーンの楽友協会は、皇帝フランツヨーゼフがカールス教会に向き合つリンク通り沿いの広大な敷地を提供した後、テオフィール・ハンセンの設計により二七〇年に竣工した。ウィーン・フィルの本拠地である。ニューイヤークンサートで有名な大ホール (黄金のホール) は、絢爛豪華な装飾が施され、長さ約五〇メートル、幅二〇メートル、高さ一八メートルの直方体構造である。アウグスト・アイゼンメンガー制作の天井画、フランツ・メルニツキー制作の白い彫像群が魅力的である。一四四の座席と二〇〇の立ち席合わせて千人以上の聴衆が音楽を楽しめる。その他、ブライムスホールなど二六つの中小ホールが設けられている。

一五、京都では岡崎にある前川國男の設計による京都交響楽団が一九六〇年に開館し、京



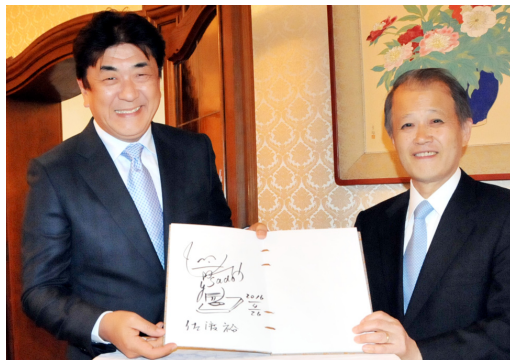
都市交響楽団の定期演奏会などが行われていた。京都府では、千席を越える唯一のホールであった。施設の老朽化に伴い、二〇二三年三月に閉鎖して改修事に入り、二〇二六年三月に再オープンした。改修費用捻出のため、地元電子部品メーカーに命名権を売却し、ロームシアター京都として再出発した。オペラ、バレエほか総合舞臺芸術、コンサート用のメインホールは、二〇五席、その他サウスホール及びノースホールの中小ホール、並びに岡崎公園に隣接する中庭の野外イベント会場 (ロータスクエア) が設けられている。両市のコンサートホールは市民に愛されているとともに、千人以上の聴衆が音楽を楽しめることが似ている。

余談であるが、筆者はニューイヤークンサートを始め、楽友協会大ホールで何度か演奏会を聴く機会に恵まれた。学生時代には京都交響楽団の演奏会を聴き、最近もロームシアター京都での演奏会を聴く機会があった。両市の代表的なコンサートホールを紹介できた幸運に感謝しつつ、楽友協会のスケッチを掲載させていたが、

■ 杉本純 前京都大学教授  
元原子力機構ウィーン事務所長 ■



# 大使公邸 Yutaka Sado 佐渡裕さんのお話 『ウィーンと私』



月刊ウィーン主催・日本大使館協力で音楽付講演会「佐渡裕さんのお話＝ウィーンと私」が大使公邸で開催された。佐渡さんはシーズン 2015/16 からトーンキュンストラ・オーケストラ・ニーダーエスタライヴ首席指揮者に就任。この日本とオーストリアのコンビにとって初の海外ツアーとなる日本公演を目前に控え、ウィーンから応援したいという願いが込められていた。佐渡さんのお話は、クラシック音楽に親しんだ京都での子供時代から、約30年前に初めてウィーンに来たいきさつまで、興味ある内容が続いた。話の後はウィーン在住の歌手4名とピアノ伴奏者2名による日本とオーストリアの曲の演奏があり、歌手全員で「ふるさと」を歌った。続く大使館主催レセプションは、佐渡さんを囲んで和やかな雰囲気包まれた。

